

## 本日（2015年8月21日）の国内株式市場の下落について

2015年8月21日

### <本日の国内株式市場>

本日の国内株式市場は、寄り付きから大きく下げて始まると、その後も徐々に下げ幅を広げ、TOPIX(東証株価指数)は▲3.13%、日経平均株価は▲2.98%で取引を終えました。日経平均株価の終値は、7月10日以来の2万円割れとなりました。

### <株価の下落要因>

株価下落の直接的な原因は、昨日の米国株式市場でNYダウが▲2.06%と大幅安となったためですが、その背景には、中国株安の再燃による中国景気への懸念、あるいは商品市況安などを受けた世界的な景気減速への警戒感の高まりがあると考えられます。加えて、朝鮮半島情勢が緊迫の度を増したことも、幾分マイナスの影響を及ぼしていると考えられます。

### <中国株と中国景気の動向>

中国株に関しては6月までのバブル気味の急騰に対する調整が、まだ継続しているとみられます。ただし、(1)7月の安値付近まで再び下がってきたことで当局の対応が強まると考えられること、(2)株価下落によりPER(株価収益率)などの割高感は払拭されていると考えられることから、さらなる下落余地は縮小しつつあるとみられます。

中国景気に関しては、市場予想を下回る経済指標の発表が多く、引き続き減速基調にあるとみられます。しかし(1)7月30日の共産党中央政治局会議で景気重視を確認していること、(2)2016年からの次期五カ年計画の策定が本格化するにあたり、足元の経済の安定が重要と思われることから、今後は景気対策も強化される可能性が高いと考えられます。先行して対策が打たれた不動産関係では、住宅価格が底打ちするなど、すでに効果が表れています。

#### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>

## <今後の見通し>

今週見られた株式市場の不安定さは、ファンダメンタルズの悪化によるものというよりは、中国の株安や商品市況安に反応したセンチメント主導の面が多分にあると思われます。したがって、市場参加者の不安の織り込みが一巡する、あるいはファンダメンタルズが悪化していないことが確認できれば、過度な悲観は徐々に修正されていくと考えられます。

米国の利上げ開始時期に関するコンセンサスの揺らぎも、市場の不安定さの一因になっているとみられますが、9月のFOMC(米国連邦公開市場委員会)で、利上げであれ利上げ見送りであれ1つの結論が出ることで、その後は不透明感が薄らいでいくと思われます。

10月後半からは4-9月期決算の発表が本格化しますが、4-6月期決算の良好な内容を踏まえると、通期業績予想の上方修正が相次ぐと見込まれ、年末にかけて株式市場が堅調に推移する原動力になると考えられます。

以上